



東地申第62号 4月28日

「統括センター・営業統括センターの設立（第3期）について」に関する

解明申し入れ【大田営業統括センター】団体交渉を行う！ ～その1～

団体交渉で確認できたこと

- ・人減らしでも穴埋めでもなく、社員・お客さまにとってプラスの施策である。
- ・営業統括センター発足に伴う見習いの回数は設けず、社員1人ひとりのスキルに応じて対応する。
- ・制服着用について、5月の勉強会で全社員に周知するが「勤務指定された箇所で、更衣をすること」が基本。
- ・作業ダイヤについては変更しない。
- ・教育やフォロー、現場実態の課題は、職場での「管理者とのコミュニケーション」が重要である。

1. 大田営業統括センターにおいて、今施策の目的をいかに達成するのか会社の考えを具体的に明らかにすること。

【回答】 これまでの硬直的な仕事の垣根を超えた柔軟な働き方を実現していくために、系統や事業分野を超えた業務を行うこととなる。

組 合	会 社
◆現場では「営業統括センター施策は、人を減らす施策、穴埋めの施策ではないか」となっている。営業統括センター設立の目的と目的達成に向けてどのように考えているのか明らかにすること。	◇人減らしや穴埋めが目的の施策ではない。社員の活躍フィールドを拡げるためであり、社員・お客さまにとってプラスになる施策だと考えている。社員の経験や知識を伸ばして、そこで得た知見などを活かしていただきながら、地域と密着して新たな活動を行っていただきたい。そのために、それぞれ顔やお互いの業務を知ること、今まで経験、知識を得ることによって、新たな創造性を発揮していただきたい。必要な要員は確保していく考えである。
◆営業統括センター第1期・第2期の課題や異なる点から、大田営業統括センターでどのように活かすのか明らかにすること。	◇第1期・第2期は年度の途中から新しい職場ができた。第3期においては、4月の段階で営業統括センターができるということを見据えて、一緒になって勉強会とか委員会を組んで様々な取り組みを行っている。

2. 大田営業統括センターにおける駅毎の特情について、会社の認識を明らかにすること。

【回答】 駅の規模等、職場を取り巻く環境の違いにより業務実態が異なることは認識している。

組 合	会 社
◆蒲田駅、大森駅の特情はどのようなものがあるか明らかにすること。また、お客さまはどのような特徴があるのか明らかにすること。	□蒲田駅は、東急線の乗換、京浜東北線の輸送の中核であり、出札・改札・信号と様々な仕事にチャレンジできる駅である。大森駅はどちらかと中小駅であり、改札が中心の駅である。単独の駅では日本有数の乗降数の駅である。同じ大田区内の駅ではあるが異なった顔を持つ駅である。両駅共に、地元のお客さまが多いと感じている。
◆そのような中、どのような活躍を求めているのか明らかにすること。	□蒲田駅は鉄道オペレーションが一通りできる駅である。大森駅は、社員1人ひとりが求められる役割・スキルが違うが、様々な対応が求められる駅である。



東地申第62号 4月28日

「統括センター・営業統括センターの設立（第3期）について」に関する

解明申し入れ【大田営業統括センター】団体交渉を行う！ ～その2～

3.大田営業統括センターにおいて、社員育成・教育について具体的に示すこと。

【回答】 これまでの硬直的な仕事の垣根を超えた柔軟な働き方を実現していくために、必要な教育・訓練は実施していく考えである。

組 合	会 社
◆社員の教育をどのようにしていくのか明らかにすること。	<input type="checkbox"/> 駅の特情とかも知った上で必要な教育をしていく。もともと違った職場が同じになるということで、当然、 最初の見習が3徹で1本が絶対ではない。回数など一律に考えずに、個人個人に沿って考えている。 その業務が従事できるかが大事になってくる。 個人のスキル・習熟度を勘案しながら管理者とコミュニケーションを取りながら成長させていきたい。
◆社員のスキルについて、どのように考えているのか明らかにすること。	<input type="checkbox"/> 社員がどれだけ必要なスキルを身につけているのかということは、 管理者なり教える方、当事者がしっかりコミュニケーションを取りながら向き合っていくべきと考えている。
◆業務に特化した社員、エキスパートと呼ばれるような社員を育成すること。	<input type="checkbox"/> 業務に特化して、知識を増やしていくことは大事であり、組織と蓄えられてきた知識・経験を、いかに若手に引き継ぎ、職場内で定着していくかが大切であると考えている。 特化したスキルを持った方を作っていくことは大切 である。

4.大田営業統括センターにおいて、制服を着用し駅相互間を移動する際の方針を具体的に示すこと。

5.大田営業統括センターにおいて、貸与品を保管するための個人用ロッカーなど必要な設備の整備について考え方を具体的に示すこと。

【回答】 4項：就業規則等に則り取り扱うこととなる。

5項：必要な設備の整備は行っていく考えである。

組 合	会 社
◆制服着用について、大森・蒲田駅へ移動することになるが、そのようなことが想定されるか示すこと。また、全社員にどのように周知するのか明確にすること。	<input type="checkbox"/> 勤務指定の際に、指定された箇所で更衣をしていただくことが基本スタンス。5月の勉強会で基本スタンスの周知を行う。 着替える場所は、大森駅の社員が蒲田駅で勤務指定されている場合は、蒲田駅で着替える場所を用意する。大森駅で着替えて蒲田駅へ向かうことも可能であるが、労働時間ではないという説明をする。制服を着ているから労働時間ということではない。ケースバイケースである。
◆制服は、持ち歩くということで良いのか。	<input type="checkbox"/> その通りである。
◆仕事をするために制服を着て移動しているので、賃金が発生しているという認識を主張する。	<input type="checkbox"/> 主張については承る。
◆あらかじめ着替えて電車に乗って行く方が多いと認識している。同じ大きさのロッカーを用意して欲しいとは言わないが、鍵がかかって、帽子や靴などがおけるような小さいロッカーを設置すること。	<input type="checkbox"/> 基本は、各エリア内に1つのロッカーを設置する。無い箇所については、ダイヤル式の共用ロッカーを設置する。 コインロッカーのような小さいものの設置は、各箇所の判断でかまわない。 首都圏本部内でできる範囲内のことはしていく。
◆制服で移動した場合、お客さま案内を車内で行った場合の取扱いは超勤とすること。	<input type="checkbox"/> 管理者に報告して超勤 となる。



東地申第62号 4月28日

「統括センター・営業統括センターの設立（第3期）について」に関する

解明申し入れ【大田営業統括センター】団体交渉を行う！ ～その3～

6.大田営業統括センターにおいて、企画業務を行う体制をどの様に構築するのか考え方を明らかにすること。

【回答】これまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方を進め、成長意欲・チャレンジを具現化できるフレキシブルな組織(職場)で一人ひとりの活躍フィールドを広げていく考えである。

組 合

◆企画業務ということが、必要な業務であると規定されている。どのような体制を構築していくのか示すこと。

会 社

□作業ダイヤの見直しによって必要な業務を見直して企画業務を組み入れている。業務の繁閑や箇所によって、状況が異なり、いろいろな環境の中でどうやって行くか模索段階である。今までなかった価値創造をやっていただきたい。一律にこうしましょうという正解はない。出来そうなところから良い。

7. 大田営業統括センターにおいて、設立後の新作業ダイヤの提示についてスケジュールを明らかにすること。また、社員からの意見集約について考え方を明らかにすること。

【回答】作業ダイヤは、お客さまのご利用状況等を踏まえ、簡所長による定例的な業務指示・命令を図式化したものである。なお、必要な周知は行っていく。

組 合

◆作業ダイヤは、何か変わるのか明らかにすること。

会 社

□職場を知ってもらうために、6月1日の段階は現状の作業ダイヤでの対応とする。名称を変えるだけである。

8. 大田営業統括センターにおいて、大森駅の当務副長が蒲田駅の当務副長を担う場合には運転取扱業務が必須であるが、教育のスケジュールについて考え方を明らかにすること。

【回答】必要な教育・訓練は実施していく考えである。

組 合

◆蒲田駅は運転取り扱い駅である。大森駅の副長が運転取り扱いの資格を得るために、必要な資格を取得している段階で良いのか明らかにすること。

会 社

□その通りである。必要な適正、55H教育など担務を行う際に必要な資格は持ってもらおう。資格なので、業務に従事する際に必要であれば、最終的に単独でその適性が必要であれば取得していなければならない。

解 明 交 渉 を 終 え て

大森駅・蒲田駅と異なる特情がある駅が1つの職場になることで、社員教育や育成を上手く進めていくためには、現場でのコミュニケーションが取れる職場環境を構築しなければならない！そのためには、現場の声に寄り添ったうえで、理解・納得いく議論をしていくことが重要だ！

